

名古屋市男女平等参画審議会（１１期） 第３回基礎調査部会

日時：令和６年 10 月 29 日（火）午後 2 時 00 分から午後 3 時 30 分まで

場所：名古屋市役所西庁舎 11 階 西 11A 会議室

出席者：名古屋市男女平等参画審議会委員 5 名

男女平等参画推進課長

傍聴：0 名

記者：0 名

1 開会

2 議題

（１）審議会全大会提出資料（調査結果（速報）概要）（案）

（男女平等参画推進課より説明）

【部会長】

調査票の「1 各分野の男女の地位の平等感」「2 社会全体における男女の地位の平等感」「3 性別役割分業意識（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成か反対か）」で、選択肢から「わからない」を削除したことについては、直接比較が難しいので、削除したということ踏まえて前回との比較を書くということですね。何も言及しないで比較するわけにはいかないし、比較しないというわけにもいけないので。

【委員】

「3 性別役割分業意識（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき）」の「女性について、賛成は 70 歳以上と 30 歳代とで特に高く、反対は 70 歳以上と 30 歳代とで特に高い」とあるが、これは正しいのか。見る限り、明らかに反対が高いのは 18～29 歳なので、訂正が必要かと思う。

【部会長】

女性の 30 歳代で賛成が 2.9%（賛成）と 31.2%（どちらかといえば賛成）ですよ。70 歳以上も（4.1%と 30.1%で）確かに高い。

【事務局】

選択肢の「賛成」と「どちらかといえば賛成」の二つを含めて（本文中の）賛成としている。女性で「賛成」または「どちらかといえば賛成」の選択肢を選んだ方は 30 歳代と 70 歳以上で特に高く、反対は「70 歳以上と 30 歳代とで特に高い」と誤って記載があるが、反対が多いという書き方をすると 18～29 歳が（割合としては）高くなる。反対については、「18～29 歳で特に高い」というように修正する。

【部会長】

他にお気づきの点がありましたらお願いします。それほどまだ皆さんも詳しく見られていないかと思うので、今の時点で何かあれば。

配偶者等や交際相手からの暴力被害経験率（この 1 年間）」で、例えば男性の 42.9%が「性的強要」が 1～2 回あったと答えており、女性よりも圧倒的に多いが、回答者数が 7 人しかいない

ので、その影響が大分反映されているということは、nが入っているのでわかりやすくなっている。この辺も報告書を書くときに、注意が必要だと思う。

【事務局】

「2 言葉の認知度」のセクシュアル・マイノリティ関係で、性別を「答えたくない、わからない、その他」でグラフを作成しているが、nが17ということで、どのようにグラフについて捉えれば良いかが難しい。グラフをそもそも載せるか載せないかというところも迷いながら作成した。(nが)17と書いたうえで載せるのが良いのか、逆に載せないほうが良いのか、どのように書かせていただければ良いか。

【部会長】

(性別を「答えたくない、わからない、その他」とした人の)セクシュアル・マイノリティ(の認知度)は若干高くて、カミングアウトは、低い。アウティングはあまり変わらないか若干低いぐらい。

【事務局】

17人の属性というのが、性別を書かなかった、という回答(のみ)。

【部会長】

性的指向とか性自認について、「答えたくないとかわからないと答えた人がどういう人か」という調査があって、その調査を見ると、異性愛者だけれども、そういう異性愛というように自己規定するのが嫌だとか、そういう人が4、5割いるという調査研究がある。なので、答えたくない・わからない＝性的マイノリティとも言えなくて、性的マジョリティでラベリングを拒否する人と性的マイノリティの人が混在しているカテゴリーではあると思う。

【委員】

これは本人たちの性的指向やアイデンティティーを聞いたものではなくて、知識、言葉を知っているかを聞いているものですね。

【部会長】

これは性別に関して答えたくないということ。

【事務局】

フェイス項目で「性別は何か」と聞いていて、選択肢が「女性」「男性」「答えたくない、わからない、その他」の3つを用意して、「答えたくない、わからない、その他」を選択した方が、17人。このような表記にすると、逆にこの方々がセクシュアル・マイノリティであるというように見えるのも(良くない)。女性・男性と答えた方の中にも、同性愛者の方とか性的指向が分からない方もいらっしゃると思うと、どういうふうにグラフを作成するのが良いのか。調査したデータとして出してしまうのが良いのか。

【部会長】

ここは誰が執筆だったか。

【事務局】

ここは部会長（が執筆）。

【部会長】

グラフを載せておいて、この結果イコール性的マイノリティというのは、他の先行研究からしても、必ずしも言えないということを書いても良いが。除いた方が良いとかはあるか。

【事務局】

他のグラフは、女性・男性（の記載）で、その他と答えた方は全体の中に（のみ）入れている状態のため、分けた意味合いみたいなものが何か、ということが問われるのでは。

【部会長】

意図としては、性的マイノリティである可能性を考えて、「2 言葉の認知度」のセクシュアル・マイノリティ関係については「答えたくない、わからない、その他」を取り出して集計を出したが、一貫性のある回答がないということ。セクシュアル・マイノリティは高いけれどカミングアウトが低いというのはちょっと不思議だが、そういうことがわかったと書くのか。それはそれで結構面白い知見ではあるが、初めから除いてしまうか。

【事務局】

クロス集計には（結果を）全部載せる。

【部会長】

全部載せるのであれば（初めから除けば）良いですかね。（回答に）一貫性がない。

【委員】

数が違いすぎる。

【部会長】

傾向に一貫性があれば良いが。やめましょうか。

【事務局】

他と揃えて女性と男性だけで。

【部会長】

皆さんよろしいか。では削除とする。

【委員】

何か得られる知見があるのであればだが。

【部会長】

他はどうか。

審議会当日は、これをもう少し丁寧に説明していただいて、審議会の委員からも何かコメントをもらうという感じか。例えばこの辺をもう少し分析に重点を置いてほしいとか。

【事務局】

事務局でこの表を作りながら感じていたが、若年男性（18 歳から 29 歳）の平等感の部分で、性別役割分業意識に「賛成」と答えた割合が 8.6%で他と比べて高い。他にも、子育て世代からの 30 歳代女性も、性別役割分担に「賛成」「どちらかといえば賛成」という人が高くなっている。こういったところが、どのように分析されるのか。

【部会長】

男性の 18 歳から 29 歳は反対が多いのでは。

【事務局】

一番強い「賛成」を選んだ方が 18 歳から 29 歳の男性で最も割合が高い。「どちらかといえば賛成」を含めると年代ごとで賛成（の割合は）上がっていくが。また、「2 社会全体における男女の地位の平等感」を見ても、18 歳から 29 歳の男性で女性優遇と感じている割合が高まっていたりする。

【委員】

何を優遇と思っているのだろうか。若い男性が割を食っていると思っているのだと思うが、それはもしかしたら、レディースデーだとか、若い女性がちやほやされるという意味で優遇というのであれば、それは女性の権利とか社会進出における女性の優遇とは、また全然違う感覚だと思う。この調査ではわからないが。

あと、そういうふうに保守化が進んでいる一方で、家庭内では平等だ、というのがすごく高かったり。役割が分業で固定されていてちょうど平等みたいな。

【委員】

うろ覚えだが、男女共同参画局の「男女ですれ違う意識」というので、若い人で男性の方が損しているといった資料があった。他の調査でも何かそういうのがあるかもしれない。性別役割分業意識の差が男女で違いが出てきそうな調査。

【部会長】

ポジティブアクションとか、理系の入試の女子枠だとか、そのへんに反応する学生、特に男子学生はいるような気がする。授業で接している感じだと。

【委員】

教員の公募でも。

もっと身近なことだと割り勘。何で男が全部デート代を持たなければいけないとか。多分だが、やはり経済格差があまり良くない、というのがあって、自分たちばかり損していると。賃金は上がらないし。そういったことのはけ口として、ひょっとしたらそういうことがあるのかもしれない。

【委員】

日本では、女性は若いときだけしか価値がないみたいな扱いもあって、そういう意味では、特に若年男性からすると、自分たちと同年代の女性が、若いということがすごく価値を置かれているので、いろいろと得していると思っているのかもしれない。

【委員】

一時的にこういった若い人がちやほやされるというのは今に始まったことじゃないので、ひょっとしたら、年齢を経てやっと、実際に社会出てみると、そうでもないかなというふうになるのでは。

【部会長】

他の調査と比較してみると面白いかもしれない。

【委員】

新しい傾向なのか、意外と昔からあるのか。

【部会長】

名古屋特有なのか。

【委員】

地域差はあると思う。

【部会長】

私は、報告書などを書くときは、例えば3ページだと、全体1800nのあとに、賛成・どちらかといえば賛成のパーセントを足して、その数字を横に書く、みたいなことをする。グラフだと、足し算するのが大変なので。

【委員】

横浜市かどこかの報告書だと、すごくシンプルに簡潔に書いているのをみたことがある。例えば、賛成と反対だと太い線で書くとか。

【委員】

賛成と反対と分かれるところで線を入れていくとわかりやすいかもしれない。

【部会長】

ひとまずよろしいか。資料1については、審議会のときにお気づきの点等コメントいただけたら。

続けて資料2「第10回男女平等参画基礎調査分析に係る検討事項」について、事務局方から説明をお願いしたい。

（2） 第10回男女平等参画基礎調査分析に係る検討事項

（男女平等参画推進課より説明）

【部会長】

いかがでしょうか。

表面の下の、「共に働いている」から無回答までは全部やっていて、下までやるのかどうかというところで、優先順位が高い方からやって、優先順位の低い方は、時間が遅れて出てくるということか。優先順位の高いのは性別役割分業もしくは性別役割分業の考えに関わることですかね。

【事務局】

共働きか片働きかで影響が出てくるかもしれないというところを優先順位【高】に入れている。

【部会長】

ちなみにどれくらい時間差が出るのか。高いと低いで。

【事務局】

高い方は、全部やろうと思うと分量があるので、1～2週間くらいで何とか出てくるか。低い方は、執筆期間中、年末くらいまでに出てくるか出てこないかくらいか。

【委員】

これは業者に委託しているのか。

統計ソフトで、簡単に計算できる。RとかPythonとか、コードを書けばすぐに出ます。

【事務局】

調査業者に委託しているので、(ソフトを)持っているかも。

【委員】

家庭生活が平等だと答えた人が、実際、家で(家事などを)どちらがやっているか。個人的に知りたい。

【事務局】

概要の方見ていただくと、第1章の(1)の家庭生活が平等になっているかと、11ページの下の実際の家事・子育て・介護の役割分担というところ。

【部会長】

男性優遇と平等と女性優遇の3つぐらいに分けて、実際の分担(を聞いている。)

【事務局】

9ページは家事全般の実際に要する時間がどうなっているか。

【委員】

妻が8、9割(家事などを)やっけていても、平等であると答えているのか。

【事務局】

時間でみると、家事とか子育てというのが分かれてしまうので、11ページの下側で実際の分担というのを聞いている。

【委員】

11ページの2で、家事・子育て・介護の役割分担の希望と実際に聞いているが、実際の方は、結婚状態にある方のみに答えてもらっていて、希望も同じ(結婚状態にある方のみの回答)か。

【事務局】

希望は 1,800 人全員。結婚している・していないにかかわらず。

【委員】

これはそろえないといけないのでは。実際に結婚している人が実際やっているのと、いや本当はこう（思っている）なんだ、というのを比較するのであれば、同じように属性をそろえないと比較できない。単純比較するのであれば、実際結婚している人の希望と現実というようにしないといけない。全体の傾向として別に載せるのは OK だが。

【部会長】

そうすると、この 11 ページの下全体の 1,193 というのは、調査票だとどこか母数となるのか。

【事務局】

（この設問に）答えた方が母数ということになる。結婚しているか・していないか、配偶者・パートナーがいるかは聞いているが、同居しているかまでは聞いていない。設問で「配偶者・パートナーと同居している方におうかがいします」と聞いており、母数はフェイス項目から離れている。ただ、希望する分担については、フェイス項目の中で配偶者・パートナーがいる方に限れば、多少似た母数にはなってくるが。

【委員】

なので、下で、女性 666 人・男性 519 人だが、そっちにそろえていただいて。

【部会長】

下の設問で答えた人が上の設問でどう答えたのか、というのを見るということですね。そういう集計はできるような気がするが。

【委員】

そうでないと比べられない。全体を載せるのももちろん重要だが。

【部会長】

そちら検討してください。

【委員】

あと、グラフだが、8 ページから 9 ページを全部横に帯グラフでやっているが、これは分布を見たいと思う。なので、棒グラフだと分布が形状として見えるので、全体的にどこが一番大きい時間帯かが属性ごとに違うのかというのをパッと目で見やすくするのであれば、パーセンテージでいいので、縦棒グラフの方がよい。

【委員】

属性ごとにグラフを作るということですね。

【委員】

帯グラフというのは割合を見るグラフなので、これだとあまり意味がない。

【部会長】

それは例えば、18 歳から 24 歳の男性についてのグラフをそれぞれ作る、ということか。

【委員】

そうですね、違いがはっきりしているもの、特に取り上げたいものに関してはそのようにした方が分かりやすい。

【事務局】

グラフの見た目の話ということか。例えば 12 ページに載せているグラフだと、全体・女性・男性というふうに分けて、棒グラフを三重にするイメージか。

【委員】

そうだ。

【事務局】

割合ではなく分布で見た方がよいということか。

【委員】

その方が見やすい。時間帯と属性ごとに出した方がよい。集計は問題ないが、報告書にするときの見せ方としてもうちょっとよい方が。

【部会長】

他資料 2 についてよいか。

【委員】

クロスについて良いか。第 9 回の調査報告書では、クロス集計について言及するときに、5%とか 1%水準でというところが書かれているが、それは委員が（記載することか）。

【部会長】

有意差はどうか。前回はやったということだが。

【事務局】

第 9 回基礎調査報告書の 11 ページに有意差について掲載している。

【委員】

これサンプリング誤差ですよ。

【委員】

例えば（第 9 回基礎調査報告書）77 ページなど、報告書の中に記述がある。

【委員】

これは元のデータがないと計算できない。性別で数字が分かれているけれども、統計的にその差というのが、意味があるのかないのかということ。でも、私たち（委員）は個票を触ってないので計算ができない。そのあたりは業者の方でやっていただいて、その結果を書くということでは。

【部会長】

前ははどうしたのか。業者にクロス集計をして、カイ二乗検定もやってもらったのか。多分、この報告書を書いた人も、元のデータはあたっていないのでは。（今回は）そこまで書かないというやり方もある。

【委員】

学術論文だとあれだが、報告書を読む方が理解できないことを書いてもしょうがない。すごく重大なことであれば、そこまで踏み込むが。

【事務局】

逆に、クロス集計をやるときに、母数が少なかったりする（数値）のを使ってしまうと、それを載せると、というところがある。

【委員】

参考のために、一応出していただいて、執筆される方の判断でという形か。

【部会長】

今は（有意差を）出してもらっているのか。

【事務局】

クロス自体は、母数が出るだけ。

【部会長】

多分、業者は統計ソフトを使っているのであれば、そのカイ二乗（検定）とかは設定をしていれば出るはず。

【事務局】

今はそこまで（の結果は）もらっていない。

【委員】

前はもらっているのですよね。私たちは個票をもらっていないので計算できない。

【部会長】

私は報告書に関しては、必ずやらなければいけないとも思わないが。ただ、前回はやっているんで、やった方がいいということであれば、データをもらえれば多分できなくはないと思う。

【事務局】

後ろに全部使った数字は載せるが。

【部会長】

本来であれば、ここにもカイ二乗検定でどこが有意かどうかというのを、表にもう 1 個つけてやるはず。それが載っていないのでちょっと不思議。確かに差があるといえるのかどうかというのは、それをやらないと本当は言えない。

【事務局】

今はお答えができないので、業者に確認する。

【部会長】

必要なら出してもらって。特になくても書けると思う。
他よろしいか。資料 2 については、以上です。

(3) 報告書作成スケジュール

報告書たたき台

今後のスケジュール

(男女平等参画推進課より説明)

【部会長】

報告書の方は、例えば資料 4 の 21 ページのところで、上のグラフの解説は事務局で作ってあって、解説のあとにここから何が読み取れたのかという分析を、それぞれが執筆する。もちろん上のところをいじってもらうのは問題ないが、一応フォーマットができているので、分析・解釈のところをそれぞれ入れていくということが想定されている。それを事務局案だと、11 月 29 日まで、あと 1 ヶ月でやるということ。(事前に)事務局と話をしたが、資料 5 で、部会としては今日ここで顔を合わせてデータについて説明を受けて、このあと各自で執筆をして、そのあとメールで互いの(案)を見て気づいたところがあればコメントをしあい、1 月に審議会のメンバーにもそれを送って、また見てもらうという流れはいかがか。皆さん 1 ヶ月で行けるか。少し締切を後ろ倒しにするとどうなるか。

【事務局】

この基礎調査部会を、報告書執筆作業がほぼ終了した後に集まるかどうか、というところでスケジュールが変わってくる。メールでやりとりをするということであれば、それなりに遅らせても大丈夫と思う、審議会の他の委員への確認も、1 月にしなければならないというものでもないので 2 月に回すこともできる。

執筆原稿を確認いただいた上で、一堂に会して集まった方が特にやりやすいということであれば、例えば 1 月ごろに幅を設定するので、あと半月ちょっとくらい締切を伸ばせる。

【部会長】

事前の打ち合わせで、出してもらった締切だと、私が確か 1 月の中旬で、皆さんはいつだったか。

【事務局】

クリスマス、24 日ごろ。5 年前の調査だと審議会の中に部会を設置するという形ではやっておらず、基礎調査研究会というものを審議会とは別に設置をして単体で動いていた、ということ

もあり、年末に一旦原稿締切で、今年度まとめた部分は年明け締切。1 月から 2 月にかけて、原稿の取りまとめ作業を行って、3 月に納品だった。今回、審議会の他の委員への確認作業が入った関係で、仮の案の締切が 11 月だった。

【部会長】

本当は対面やオンラインでお互いに書いたものをコメントしあうような場があったほうがよいかと思い、このような日程としていたが、この日程だと学期中でもあるので、多分なかなか厳しいと思う。例えば、調査部会委員の皆さんは 12 月末くらい（を締切）にして、私が最後のまとめを 1 月中旬くらいまでに書いて、審議会の他の委員にはまとめたものをメールで閲覧することで、基礎調査部会も可能ならオンラインなり対面で開催するが難しければメールのやり取りのみで、執筆の時間を長くとった方がよいかと思うがいかがか。

【事務局】

それでは、基礎調査部会委員の締切を 12 月下旬、24 日頃を一旦の締切として、部会長が 1 月 15 日頃、そのあと取りまとめ作業をして、部会の委員で意見交換、そのあとで審議会の他の委員に確認、といった流れで進めさせていただく。

【部会長】

それでよろしいか。

【委員】

書いていくうちにやっぱりここをこうして、というのが出てくる気がするが。

【事務局】

事務局とのやりとりで話してもらって、もし他の委員とも共有をしたいということがあれば、その旨事務局にお伝えいただければ展開をさせていただく。

【委員】

最後に、今のところで気がついたことをそれぞれ確認いただければ。

【部会長】

スケジュールについては以上でよいか。

委員から何か今日、伝えたいことがあれば。

【委員】

先ほど事務局の方から調査の目的・方法というので、資料 4 の最初のところ、（第 9 回調査報告書）10 ページ 11 ページでサンプリング誤差とか、その標準誤差のことで質問いただいたが、私は、計量は専門だが、社会調査の方は全然専門でも何でもないのでこのサンプリング誤差とか、このやり方というのはあまり見たことがないので、アドバイスなどは難しい。伝統的にこのようにしているのであれば、前年通りに計算して数字を埋めてもらわないと、個票をいただいていないので計算できない。いろいろ比較したりだとか出た結果を見て、気がついたらお知らせすることで、この調査の標本特性と分析手法については、例年通り、同じやり方で業者の方で記載いただければと思う。

【事務局】

論文等でも使われてないのであれば、ここに載せる意味があるか。

【委員】

回答してくださった一般市民の方がご覧になることが前提なのか。

【委員】

参考資料として、前面に出さないで別添だとか。本文に載せるまでもない。特に表の 1-7 というのはあまり見たことがない。それよりも、(第 9 回基礎調査報告書) 9 ページと同じように、区ごと・年代別の配布数と回答者数、回収率を示した方がわかりやすいと思う。配ったけれどやはり若い方が答えていない、というのがわかればいいこと。質問そのものも意識を聞いており、数字を扱ったりするようなものでないので、そこまでしなくてもよいのでは、という印象。

【部会長】

これは私もつくれない。確かに厳密ではあるので、悪いことではないが。

【委員】

読者と言ったらあれだが、ご覧になる方と目的について確認をしたかったのと、(執筆について) 分析等ということだが、いわゆる数字のデータについて書いていけば、つまり、あんまりこう私見を入れないで(書く)ということか。

【事務局】

分析等があればという言い方をしているが、前回のものも数字の結果を書いているだけのところもある。

【部会長】

前回のも読まないといけない。

【事務局】

資料 4 の 76 ページに分析から見える課題という部分があるが、こちらに、データから見えることではあるが、少し書いていただく、というのを想定している。

【部会長】

本文の方はそんなに書かずに、こちらに(書けばよい。)

【委員】

淡々と書けばいいですね。

【事務局】

そのため、(分析が) あれば、という書き方にさせてもらっている。なければなしで。

【委員】

暴力の担当。(調査で被害経験を) これまでとこの 1 年を聞いているが、この 1 年間(の数値)

がすごく増えている。これは単なる記憶の問題なのか、意識が高まってきたからなのか。特にDVで何か制度がこの1年で動いたというようなこともない。

【部会長】

1年間で増えているということか。普通は減る。

【委員】

記憶がフレッシュということなのか。

【委員】

最近受け始めたということか。

【部会長】

これまでは、例えばDVだと21.6%、この1年間だと33.7%。

【事務局】

この1年間は、「これまでで1~2回」「これまで何回もある」という方に聞いている質問なので、これまでなかったという方は回答対象ではない。比較できるものとしては、内閣府の男女間の暴力の調査で、似たような調査票を使っている。

【部会長】

それであればわかる。

【委員】

私のところは地域でそれほど数は多くない。地域活動は年代とも関係してくるので、それともクロスしながらやっていく。前回のものも参考にしながら、どう違っているかというところ。

【部会長】

労働分野はいかがか。

【委員】

参考資料4の48ページから始まるが、49ページの時間のところを男女別・世代別で棒グラフで、4本か5本になると思うが、見てみたい。基本的にこういった時間帯などを聞くときは、パッと見て分布がわかる形のヒストグラムを使う方が多いので、グラフを全部作り直していただくと。時間に関してはすべてそのようにご検討いただきたい。

それから、53ページの問9は、実際（パートナーがいる方の）の希望と現実ではなかったということなので、先ほど言ったようにパートナーがいる方のみに限定して作り直していただけないか。

54ページ55ページは女性・男性のグラフが表示されていないため差し替えるを書いてあるが、男女別にとっているということですのでよろしいか。そうであれば、今のところは以上。

【部会長】

私もまだ見られていないので、後で事務局にお尋ねする。

あとは第三部、皆さん大丈夫か。これから見て検討していくことになるが。多分、前回だと 100 ページからのもの。

【事務局】

前回だと先ほど申し上げたように、審議会の中での調査会ではなくて、外で調査報告書という形で書いてあるため、これからどのように進めていくか、といったことも考えを書いてあるが、それ自体は来年、計画策定に入るため、この調査報告書を資料としながら中間評価と、これからの施策をどうしていくべきかということを（審議会にて）議論いただくため、あくまでデータの分析、課題というところで留めて書いてくださるようお願いする。

【部会長】

今日はこのくらいでよろしいか。

それでは、本日の議事については以上とする。ご審議感謝申し上げます。事務局にお戻しします。

【事務局】

本日はご審議のほどありがとうございました。申し上げた通り、来年度計画策定に入るため、この報告書が基礎資料ということで、重要な資料となる。年末に向けての本当にお忙しいところで大変恐縮だが、執筆のほどよろしくお願い申し上げます。

3 閉会